令和２年度学校だより
善誘館
ＮＯ．９
Ｒ３．１．２２
甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

体調を管理し，寒さに負けずに学年のまとめを　「すべては子どものために」

３学期が始まり２週間余りが過ぎました。３学期は，１年間の中で，最も短い学期でありますが，学年のまとめ（その学年で培うべき力を身に付けること）をしっかりと行い，新しい学年に進む準備をする学期です。特に，６年生は小学校生活最後の学期になりますので，充実した思い出に残る学期にしてほしいと思います。保護者や地域の皆様には，引き続き学校教育への御理解と御協力をお願いいたします。

大寒を過ぎ１年で最も寒い時期を迎えております。今年は，新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず，学校行事や学習活動にも，様々な予防対策を継続している状況です。

今後も，毎日の健康チェックや施設等の消毒作業，教室の換気や手洗いを励行し，より一層の体調管理に努めさせて参りますので，御家庭でもお子様の体調をきめ細かく観察し，感染症予防対策や早目の対応をお願いいたします。

来年度の児童会役員決まる

児童会活動が，今年も６年生を中心として活発に展開されました。マスク越しでしたが頑張ったあいさつ運動，ゲームや運動に親しみ絆を深めた縦割り班活動。毎月の生活目標を決め各学級の取組成果を代表委員会で発表し合いました。どの活動においても，友達と協力する姿と仲良く交流する様子が多く見られました。

このような活動をさらに活発にするために，その推進役となる児童会本部役員を決める選挙を行いました。各学級での話し合いを受けて立候補者が決まり，学級が一つになって，学級訪問や選挙運動を行いました。責任者は，立候補者の人柄や良いところをアピールし，立候補者は，自分がどういう児童会を目指していきたいのか，自分の言葉でしっかりと伝えることができました。

１月２２日（金）にテレビ放送で立会演説会を，その後，投開票を行い，次のように来年度の新役員が決定しました。児童会役員選挙のために，選挙管理委員の子ども達は３学期の始めから活動を開始し，演説会，投票，開票から当選証書授与までの仕事に責任を持って活動していました。また，立候補者の責任者となった子供達は選挙運動の中心となり，積極的に学級をまとめ，折からの寒さの中，様々な選挙運動に取り組んでいました。

皆さん，本当にお疲れ様でした。

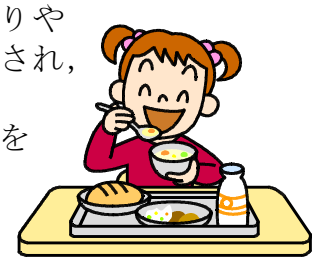
会　長	副　会　長	
原田（はらだ）　夏（あお） （現５年生）	古屋（ふるや）　陽向（ひなた） （現５年生）	小林（こばやし）　来望（くるみ） （現４年生）

給食週間～「食」を考える機会に～

学校給食の始まりは，明治２２年，山形県の私立忠愛小学校で出された「おにぎり・塩鮭・菜の漬物」だそうですが，本格的な学校給食は戦後になってからです。

戦後は食糧不足が続いており，その頃の小学校６年生の体格は，今の４年生ぐらいだったようです。昭和２１年に東京・神奈川・千葉で学校給食が開始され，それを記念して毎年，全国学校給食週間（１月２５日から２９日）が設けられております。昭和２２年には，甲府市でも学校給食が始まりました。

当時の給食は，アルマイト製の食器で，パンを主食とし，鯨肉の竜田揚げや千切りキャベツなどを副食としたものでした。その後，学校給食への理解の深まりや保護者からの絶大な支持を得て，昭和２９年に「学校給食法」が制定され，完全給食の素地が整い，急速な広がりをみました。



学校給食は，栄養のある食事を提供し児童の健康増進と体力の向上を図るとともに，みんなで食事を共にし，礼儀作法，友達との協力，更には食教育の推進を図っております。

現在，甲府市内の２５の小学校では統一献立を実施しております。給食週間中には，地産地消等も兼ねて，特別食としてほうとうなどの郷土食が出される予定です。本校でも，給食週間に合わせて，食育に関するＤＶＤ視聴，「配膳員さんへの感謝の手紙渡し」「給食委員会の朝ごはんレシピ紹介」などの取組を行っております。

この機会に，食事の果たす役割について，心身両面から考えさせていきたいと思います。御家庭でも，御協力いただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

「小１プロブレム」「中１ギャップ」対策

「小１プロブレム」「中１ギャップ」と言われる現象を御存知でしょうか。幼稚園・保育園から小学校への入学，小学校から中学校への入学により，それまでの学習形態等が大きく変化することにより発生する，子供たちの様々な不適応の現象を指しております。

【東中生による本校訪問：H31】

「小１プロブレム」としては，幼稚園や保育園は「遊び」や「体験」が重視されるのに対し，小学校は教員による「座学」での教科学習が中心になり，精神的な幼さ等から集団行動がとれず，教師の話を聞けない，一定時間を静かに過ごすことができない状態に陥るなどの行動が見られます。

「中１ギャップ」としては，不登校やいじめが増加する傾向があります。背景には，小学校と中学校での教え方（中学校では教科担任制）や授業の速度の違いによるつまずき，人間関係の変化，心身の発達(思春期)，校則や生活指導の厳格化，部活動の本格化など幾多の原因が作用し合って起こると考えられます。

この「小１プロブレム」「中１ギャプ」を少しでも和らげるために，本校職員と園や中学校の先生方が，入学する個々の幼児や児童についての情報交換を行い，その特性に応じた指導に努めたり，お互いの授業参観や学習内容の確認をしたりしております。

１月２８日（木）には，昨年度本校を卒業した東中学生が本校を訪問して，直接６年生に中学校生活の様子を話してくれる予定です。昨年度は，本校の新入学児童保護者説明会の折に，園児と１年生の交流会を持つなど，子ども同士の交流も行っていました。今後も保幼小連携に向けた様々な交流を図って参ります。